

出題のねらい

㊦は、重松清著『ポニーテール』からの出題です。捨て猫を巡る事件と、まだ家族になったばかりのフミ・マキ・母親の心情を描いた作品です。内容は分かりやすいので、心情を丁寧に追うことができるか、また、基礎的知識を習得しているかを問うています。平易な文章ですし、日常的な一コマですので、受験生の皆さんとしては、内容理解は容易だったようです。但し、丁寧に心情を追えるか、問題に即した解答となっているかと言ったところで大きく差が付いたようです。

㊧は、外山滋比古著『日本語の感覚』からの出題です。明治以来、日本人は翻訳文化という、音声よりも言葉の意味を重視する文化に馴染み、結果、文字中心で音声軽視の傾向にあるという趣旨の文章です。同じ主張を、様々な角度から繰り返し行う文章ですので、内容を把握するのは比較的容易だったと思われます。この、「認識=視覚的」という傾向にある日本の文化を、ヨーロッパの文化と比較しながら、作者の示す身近な例によって理解できるか、という点を中心に設問しています。



【解答】(50点)

問一	a 締	b 蒸	c 嫌		
	d 更新	e 要領		(2点×5 = 10点)	
問二	ウ			(2点)	
問三	ここに来て、もうごはんはなく、 今度からは自分で探さなきゃいけ ないということ			(4点)	
問四	i ア	ii エ	iii ウ	(2点×3)	
問五	B	イ	C ア	D ウ	(2点×3)
問六	X 我	Y 目	Z 頬	(2点×3)	
問七	ウ			(3点)	
問八	(1) ①ランドセルの星 ②ポニーテール			(3点×2)	
	(2)	光っていた		(2点)	
	(3)	揺れる		(2点)	
	(4)	イ		(3点)	

【解説】

問一 漢字の書き取りは意味を考えずに行ってはいけません。「締」を「占」、「更新」を「行進」「更進」としたり、「要領」を「容量」等としたものが見られました。毎年、漢字が必ず問われるのですから、問題集での書き取りの練習は、必須です。

問二 空欄補充の問題。慣用的表現を問う問題です。空欄に続く「かねる」とは、「《動詞の連用形に付けて》ある事情が働いて、そうしようと思ってもしにくい」といった意味です。この場面では、「腹に据えかねる」全体でおばさんが非常に怒っていることを表現しています。つまり、「腹に据える」が「怒りを我慢する」の意味を表します。こういった表現は普段から意識的に習得することが必要です。誤答として、エの「腹を立てかねる」とするものが見られましたが、それでは全く逆のいみになってしまいます。

問三 マキの心情や行動の理由を問う問題です。「本文の会話文の言葉を用いて」という指示があるので、①その会話文の場所を見つけること、②その会話文の言葉を問題の傍線部の解答に合うように作り替えることが求められます。①・②の作業が行なえていない場合には、誤答となります。このような操作を行なうことを意識してください。ここでは、3頁2行目の会話文を見つけ、マキとゴエモンⅡ世のいる空き地での状況に合わせて書き換えること(会話の「ウチの庭」は「空き地」とすべきですし、「引越」に関する記述は不要です)、そして、問題では、「何を伝えたかったのか」とあるので、「何」に当たるように、名詞「こと」で締めくくるとにも注意しましょう。これらの条件が満たされずに、大きく減点されたものが多く見られました。

問四 基本的な文法の知識を問う問題です。「の」には、連体修飾「いつのこと」、疑問の文末「どこにいったの?」、連体詞の一部「かの有名な」、「こともの」に置き換えられる準体言「だますのは」などの用いられ方があります。これらをきちんと理解しておいて下さい。

問五 空欄補充の問題です。文学的文章の場合、こういった情景や登場人物などの様子を描写する動詞、副詞、擬声語、擬態語などを問う問題が多く出題されます。こういった個々の言葉の意味や語感を理解しておくことが大事です。

問六 慣用的表現の知識を問う問題です。Xは、空欄の前に「ぼかんと」という表現があるので、呆けた状態から「我に返る」、Yは、無言で行動をうながされているので、「目でうながす」、Zは、お母さんが笑みを返す場面なので、「頬をゆるめる」となります。文脈を理解した上で、慣用的表現を想起する必要があります。Y・Zの正答率は低く、Yは場面に応じた行動、Zは「頬」という漢字を書け

## 公募制推薦入試／国語(前期)

なかったようで、誤答が目立ちました。

**問七** フミの心情を問う問題です。姉のマキの行動が捨て猫ゴエモンⅡ世への愛情に基づくものであることをフミが理解し、姉を信じていることは、1頁最終行から2頁1行の「フミにはもうわかっていた。…絶対に。信じる。」から明らかです。そのため、マキが「いい子」であることを確認できたとする選択肢アや、「マキが猫をいじめていたのではないことを知って」とする選択肢イ・エは間違いとなります。そこから、選択肢ウが導かれます。分かりやすい文章だけに、簡単に「流し読み」するのではなく、作者が描写しようとした情景や登場人物の心情を丁寧に読むことが大切です。

**問八** 文学的文章においては、直接的な表現で情景や心情を説明するだけでなく、比喩が用いられたり、ある特定の事物が情景や心情を象徴的に示すことがよくあります。そこで、正確な内容理解のためには、そういった比喩表現が何をどのように例えているのか、また、特定の事物がどのような内容を伝えようとしているのかを読み解く必要があります。そこで、こういった読解についても慣れておく必要があります。それが、この文章の中では、感情を素直に出せないマキに替わる「ポニーテール」や「ランドセルの星」です。本来はマキの心情が説明されるはずのところ、**「ポニーテール」**や**「ランドセルの星」**の様子が描写されることに気付いて欲しいところです。(1)・(2)共に正解率は高めでしたが、(3)については、最後の場面だけに目が奪われて、「ポニーテール」との対応で**「癖っ毛」**とした誤答が目立ちましたが、「ランドセルの星」が**「光る」**という描写と合わせて考えれば、「ポニーテール」が**「揺れる」**と対応させて解答することが導き出されるはずですが、こういった操作、解答の方法にも慣れて下さい。なお、「揺れる」の字を間違えている解答が多いことも残念です。正確な解答には注意して下さい。入試の場合、僅かな点数が結果に大きく影響します。(4)については、問題の始めに、フミは**「無愛想なマキの心がわからずになてしまうこともあ**ることを説明しています。つまり、この場面で、初めて、フミはマキの気持ちを知ることができ、そのことを喜んでいるのです。なので、解答としては、選択肢イが導かれます。



**【解答】** (50点)

問一	a 前提	b 眼鏡	c 筋	
	d 深刻	e 密室		(2点×5=10点)
問二	1 ウ	2 エ	3 ア	
	4 オ	5 イ		(2点×5=10点)
問三	エ			(3点)
問四	(1) イ			(3点)
	(2) 一石二鳥など			(2点)
問五	ア			(2点)
問六	言葉のおもしろさ			(3点)
問七	Y 目	Z 耳		(2点×2=4点)
問八	エ			(3点)
問九	最高の思索は実際の対話で進められると 考えたから			(4点)
問十	I ア	II ウ	III オ	(2点×3=6点)

### 【解説】

**問一** 漢字の書き取りは比較的正答率が高かったです。ただ、折角正解に近いところまで行っても、「前提」の「提」が「堤」になっていたり、「眼鏡」の「眼」が「視」になっていたり、「筋」が「節」になっていたり、と、ヘンヤツクリで間違うケアレスミスが目立ちました。落ち着いて、意味を考えながら答えましょう。

**問二** 空欄補充の問題。副詞を補充する問題です。おおむね、8割程度の正答率ですが、イ「そもそも」とオ「それに反して」が逆になっている解答が目立ちました。順接か逆接か、前後の文を読み、つながり方を把握しましょう。

**問三** 空欄補充の問題です。空欄に入れるのに最も適当な一文を、選択肢からひとつ見つける問題です。日本人は、「時間さえあればものを読んでいる。どんなにたわいないものでも」の後に続く文なので、読むこと=勉強だと思って居る人が多いということに注目して、エを選びます。  
ア「知識人に必要」は、空欄に続く文が「こういう子どもが大人になると」なので、子どもの話であり、知識人の話ではないから不適当。  
イ「教育を受けた人」も同じ理由で不適当。と考えられるのですが、ア、イの誤答は多かったですね。空欄補充の場合は、空欄の前だけでなく後も読むようにしましょう。

**問四** 基本的な、四字熟語の意味を問う知識問題です。「馬耳東風」の意味、あるいは与えられた漢

字を使って四字熟語を何かひとつ答える問題、ともに正答率は高かったです。四字熟語は「一石二鳥」が最も多く、「花鳥風月」「鶏口牛後」などが見られました。有名な四字熟語は、知識として身につけておきたいです。

**問五** 「なくもがな」という慣用的表現の意味を問う知識問題です。「もがな」は願望の終助詞で、「～であればいいなあ」という意味で用います。「なくもがな」は、「ないほうがいいなあ」が正解。

**問六** 内容説明問題です。長広舌に観客が感じる「何とも言えない味わい」とは何かということ問う問題でした。筆者は次の段落で、「ドラマの長広舌」と「外国の法廷のシーン」には、「同じように言葉のおもしろさに敏感な耳を持っている人の多い社会であるのを思わせる」と述べているので、これに気づけば、答えは「言葉のおもしろさ」なのですが、「クライマックス」や「独白的せりふ」といった、どこに長広舌が現れるかという答えが多かったのは、設問の意味を取り間違えた人が多かったということでしょうか。

**問七** 空欄に問題文中の漢字一字を補充する問題です。筆者の、「日本の近代文化は目の文化」で、言葉の調子とかおもしろさといった「耳」で楽しむものを軽視してきたという、対比関係に注目する問題です。この対比関係は把握しやすかったようで、正答率は高いものでした。

**問八** 内容説明問題です。明治以降の、日本の近代文化が「絵画的」とは、どういうことかを説明したものを選びます。日本の近代文化を筆者は「目の文化」と言っていることを問七で把握していれば、「絵画的」＝「目の文化」＝「視覚的」というつながりに気づくでしょう。ア「絵に表現されて渡来」が不適當。表現の手段が「絵画」なのではありません。イ「翻訳文化では、言葉の意味や内容よりも音声や色彩が重んじられる」は真逆。ウ「画家の方が育ちが早い」が不適當。

**問九** 内容説明問題（記述式）です。何故、ギリシャ人は歩きながら、話をしながらもの考えたのか。その理由を、問題文中の言葉を用いて答えます。評論系の文章では、作者の主張を直後で別の表現に言い換えて、よりわかりやすくする技法はよくあるので、直後に気をつけて読みましょう。ここでは、「そして、書いた言葉は生きた言葉の影のようなものだと考えた」は、「そして」で並列だと考えて、

この文に惑わされず、その先の、「実際の対話こそ生きた言葉で、したがって、最高の思索もまた、そういう言葉で進められるのが当然だ」という表現に注目します。正答率はそれなりのものでしたが、誤答としては、「そして」の並列に気づかず、これを書いた答案が多く見られました。評論文の読み方をしっかり勉強しましょう。

**問十** 筆者の主張に則って「悪文」とはどのような文章かをまとめた文の空欄に適切な語句を選ぶ、空欄補充問題です。「目」と「耳」、「意味重視」と「音声重視」、「対話」と「沈思」こういった対比関係を把握しながら、筆者がどのような文章を「悪文」と考えているかをまとめる問題でした。正答率は高かったのですが、気になったのは、記号で答える問題なのに、語句そのものを答えた解答があったことです。毎年、何らかの形で、こういった指示に合わない解答をしてしまう受験生が見られます。解答をするときは、落ち着いて、指示に従いましょう。